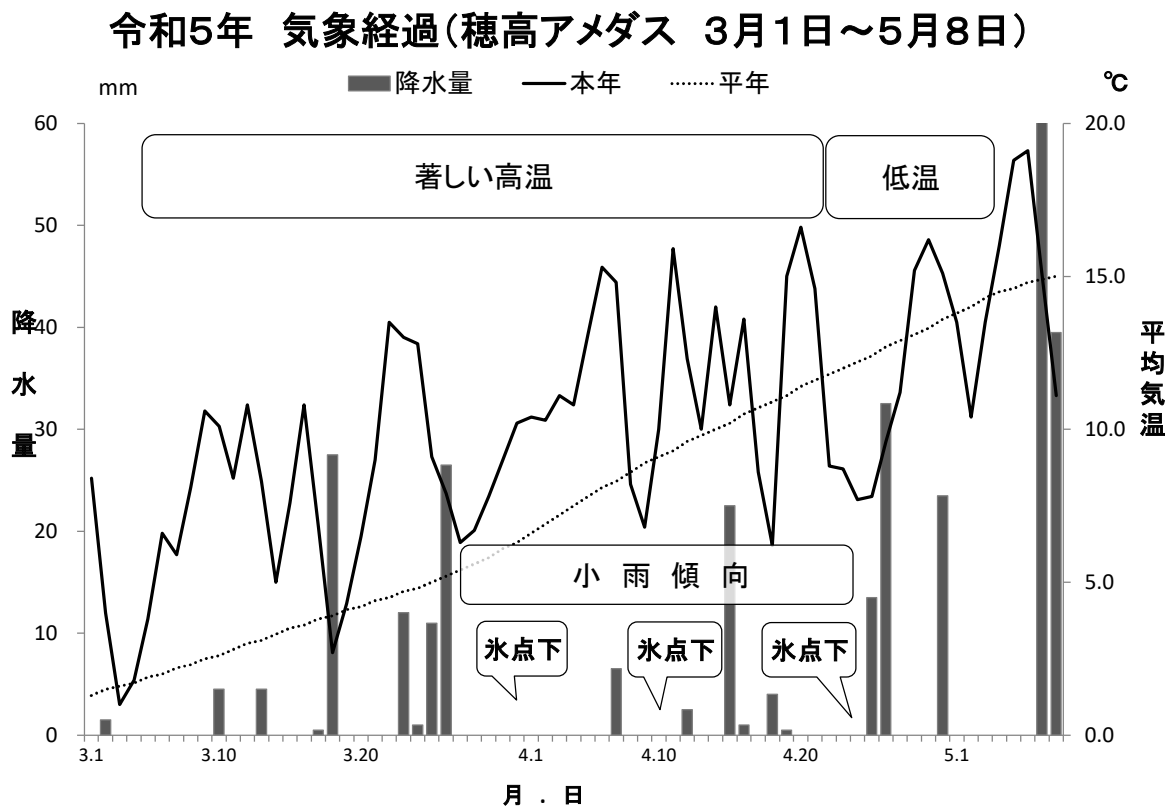


令和5年 作物技術普及情報 第7号

(麦の生育状況・成熟期予測、本田初期の水稲管理等について)

1 気象状況



- ・ 4月中旬まで著しい高温が続いていましたが、4月下旬に入ると低温傾向となりました。4月下旬からは降雨も多く、5月7~8日には降水量が100mmを越す大雨となりました。
- ・ 5月4日気象庁発表の1か月予想では、気温は平年並か低いと予想されています。

2 麦の生育状況

- 5月8日現在、生育の良好な圃場の現在の生育ステージは、以下の通りと思われます。生育は10日程度進んでいましたが、4月下旬の低温により、平年より7日程度の進みになっていると思われます。

【大 麦】 登熟初期
【小 麦】 開花始～開花期

- 3月30日・4月10日・4月25日の氷点下を記録する低温で、葉の黄化、株の生育抑制、幼穂の枯死、穂の部分退化、生育停止による穂の出すくみ、不稔、圃場内の出穂ムラ等の低温障害が発生しています。

支援センターの調査では、被害を受けた圃場は、梓川・奈良井川・犀川等の河川ぞいや、高速道路ぞいで多いように思われ、幼穂枯死の多い圃場や黄化の著しい圃場を確認しています。

また10月中に播種された等で、生育が進んでいた圃場で被害が多いように思われます。

3 麦の収穫について

- 出穂が平年よりかなり早かったため、成熟期も早まることが予想されます。積算気温による成熟期の推定をご活用いただき、コンバインや乾燥施設の稼働準備を早めに進めるようお願いいたします。
- 成熟期は麦の生育状況や今後の気象状況で前後します。根の生育の劣る圃場や極端にやせた圃場、登熟期間中に気温が高く、降雨の少ない状況が続くと、予想より成熟が早まる可能性があります。

このため、今後の生育状況にご注意いただき、収穫の目合わせの回数を増やすなど適期収穫に向けた取り組みをお願いいたします。

【参考】登熟積算気温による大・小麦の成熟期の推定(5月 8日現在)

成熟期までの積算気温を大麦は650~700℃、小麦は850~900℃として推定しています。

平均気温は穂高アメダス値です。5月 8日までは本年値、以降は平年値を用いています。

月 日	平均気温	大 麦				小 麦						
		4月15日出穂園場										
4月15日												
4月16日	13.6	14										
4月17日	8.6	22										
4月18日	6.2	28										
4月19日	15.0	43										
4月20日	16.6	60	4月20日出穂園場									
4月21日	14.6	75	15									
4月22日	8.8	83	23									
4月23日	8.7	92	32									
4月24日	7.7	100	40									
4月25日	7.8	108	48	4月25日出穂園場	4月25日出穂園場							
4月26日	9.6	117	57	10	10							
4月27日	11.2	128	68	21	21							
4月28日	15.2	144	84	36	36							
4月29日	16.2	160	100	52	52							
4月30日	15.1	175	115	67	67							
5月1日	13.5	188	128	81	81	5月1日出穂園場						
5月2日	10.4	199	139	91	91	10						
5月3日	13.5	212	152	105	105	24						
5月4日	16.0	228	168	121	121	40						
5月5日	18.8	247	187	140	140	59	5月5日出穂園場					
5月6日	19.1	266	206	159	159	78	19					
5月7日	15.1	281	221	174	174	93	34					
5月8日	11.1	292	232	185	185	104	45					
5月9日	15.3	308	248	200	200	119	61					
5月10日	15.2	323	263	215	215	135	76					
5月11日	15.3	338	278	231	231	150	91					
5月29日	17.4	630	570	523	523	442	383					
5月30日	17.5	648	588	540	540	459	401					
5月31日	17.7	成	665	605	558	558	477	418				
6月1日	17.9	成	683	623	576	576	495	436				
6月2日	18.0	成	701	641	594	594	513	454				
6月3日	18.2		719	成	659	612	531	472				
6月4日	18.3		738	成	678	630	549	491				
6月5日	18.5		756	成	696	649	568	509				
6月6日	18.6		775	成	715	成	667	586	528			
6月7日	18.8		794		734	成	686	605	547			
6月8日	18.9		813		753	成	705	624	565			
6月9日	19.0		832		772		724	643	584			
6月10日	19.1		851		791		743	662	604			
6月11日	19.2		870		810		762	681	623			
6月12日	19.4		889		829		782	701	642			
6月13日	19.5		909		849		801	720	662			
6月14日	19.6		928		868		821	740	681			
6月15日	19.7						840	760	701			
6月16日	19.8						成	860	779	721		
6月17日	19.9						成	880	799	741		
6月18日	20.0						成	900	819	761		
6月19日	20.1							920	839	781		
6月20日	20.2							940	成	860	801	
6月21日	20.3							961	成	880	821	
6月22日	20.4							981	成	900	842	
6月23日	20.5							1002		921	成	862
6月24日	20.6							1022		941	成	883
6月25日	20.8							1043		962	成	904
6月26日	20.9							1064		983		924
6月27日	21.0							1085		1004		945
6月28日	21.1							1106		1025		967
6月29日	21.3							1127		1047		988
6月30日	21.4							1149		1068		1009

3 麦の赤かび病について

- 出穂期から2週間位の間（特に開花期間中）は、降雨期間中の気温が高く、降雨期間が長いほど感染しやすくなります。また降雨期間中の気温が低くても、降雨期間が長いほど感染リスクが高まるので注意が必要です。

- 5月8日現在、降雨期間中の気温は低いものの、長時間降雨の続いた感染リスクの高い日（4月25～26日、4月30日、5月7～8日）がありました。今年は凍霜害の発生もあるため、注意が必要な状況です。

今後は、ほ場での発生状況にご注意いただき、技術情報6号でお伝えした資料「コムギ赤かび病の防除を徹底しましょう」等を参考に、対応をお願いいたします。

5月 8日現在 赤かび病感染リスクの判定
(平22技術情報より作成)

月日	連続 降水時間	降水期間 中の平均 気温	感染 リスク		
				大麦	小麦
4月15日	19	10.7	なし	出穂 ～ 開花期	
4月16日	3	10.5	なし		
4月17日					
4月18日	4	9.0	なし		
4月19日	1	9.4	なし		
4月20日					
4月21日					
4月22日					
4月23日					
4月24日					
4月25日	7	9.0	注意		
4月26日	21	9.9	注意		
4月27日					
4月28日					
4月29日					
4月30日	10	15.0	注意	出穂 ～ 穂揃期	
5月1日					
5月2日					
5月3日					
5月4日					
5月5日					
5月6日				開花期	
5月7日	23	15.0	注意		
5月8日	6	10.6	注意		
5月9日					
5月10日					
5月11日					
5月12日					
5月13日					
5月14日					
5月15日					
5月16日					

3 麦の凍霜害ほ場の対応について

- 凍霜害を受けて穂数が少ない圃場は予想より収穫時期が早まることが予想されます。また出穂のばらつきが大きい圃場では成熟期がばらつき、未熟粒の混入により収穫時の穀粒水分の差が大きくなり、乾燥調整に時間がかかることも予想されます。
- 本年は収穫時期の判断が非常に難しい年になると思われます。麦の品質維持のため、出穂のばらつきが大きい圃場は別刈りとしたりRCでは別荷受けにすることが想定されますので、今後の麦の生育状況にご注意いただき、収穫の目合わせの回数を増やす等、適期収穫に向けた取り組みをお願いいたします。
- また今後の気象状況（高温・降水）によっては、凍霜害の被害を受けた圃場で赤カビ病の発生が危惧されますので、発生状況にもご注意ください。

4 本田初期の水稲管理

(1) 本田初期の水管理の徹底

- 移植後は3～4 cmのやや深水管理として、強風や低温による植ええいたみを防ぎ、新根が出て活着したら、2～3 cmの浅水管理とする等、移植後の水管理には細心の注意をはらい、活着促進のための水管理の徹底をお願いします

- 大雨（例：5月7～8日）等で、水田の水深がかなり（8 cm以上）深くなってしまふことがあります。水を深いままにしておくと、稲が徒長し、活着不良や分けつ遅れになる恐れがあります。

このため水深がかなり深くなった場合は、水深3～4 cm程度（通常の水深）まで水を払ってください。

ただし、すでに除草剤を処理してある場合は自然に減水するのを待つか、除草剤処理日から7日経ってから水を払ってください（除草剤の水田外への流出防止を図るため、除草剤処理日から7日間は、強制的に水を払えないのでご注意ください）。

(2) 除草剤の効果確認について

- 水管理が不十分で雑草が残ったり、再発生する場合があります。特にヒエやホタルイは葉令が進んでから気づく場合が多いです。このため除草剤処理から7日後位には、圃場状況を必ず確認するようにお願いします。残草状況によっては、中期剤の対応をお願いします。

- 5月7～8日の大雨で、畦から田水が流れ出したり、水尻から田水が流出した圃場があると思います。

このような状況になると、大雨前に除草剤を処理してある圃場では、除草剤の成分が流出して、除草効果が劣ることがありますので、特にご注意ください。